

## 第3回 四国風土再発見／環境デザイン紀行 in香川

# 「地域フォーラム やま・むら・まちをつなぐもの …環境デザインを支えるシステム」

が開催されました

4月10日(土)、香川県仲南町にてフォーラム「第3回 四国の風土再発見\*環境デザイン紀行 in香川/やま・むら・まちをつなぐもの…環境デザインを支えるシステム」が会場を同町の塩入温泉の隣にある「仲南町ふるさと研修館」にて開催され、約50名の参加がありました。

フォーラムは、我々がこれまで議論してきた、全国一律でない地域らしいデザインを守り育てることが困難になりつつあることに対して、将来にわたって持続可能な環境デザインのシステムについて考えてみようというものでした。

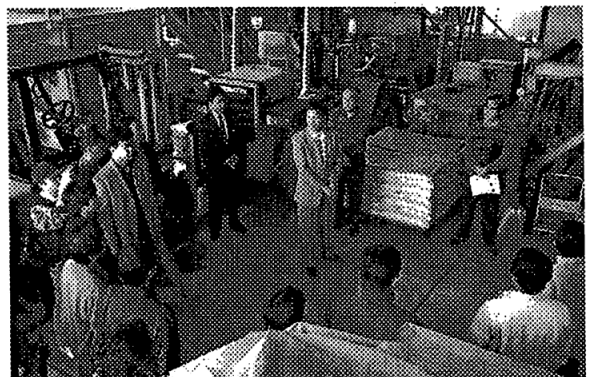
フォーラムでは、まず最初に、このようなシステムの実践事例として仲南町内にある竹炭製造プラント「有限会社四国テクノ」を見学しました。このプラントはタケノコの副産物(？良質なタケノコ栽培のためには定期的な伐採など山の管理が重要)である真竹から竹炭や竹酢液などを生産するものですが、調湿消臭等の特性を生かした廃棄処理可能な建材なども生産しています。

会場に移動してからは、まちと山をつなぐことを斬新な手法で展開中である「香川どんぐり

銀行」の活動を香川県林務課の松下芳樹さんから、まちの景観にもっとも関わり深い建物の生産と維持管理について木造建築の生産システムを例に戸塚元雄さんから報告していただき、意見交換をおこないました。

フォーラム後は交流会と塩入温泉入浴、白石さんの薫陶で12時近くまで盛り上がりました。

なお、現在、今回のフォーラム議事録を制作中です。ご希望の方はJUDInews四国編集事務局まで申し込みください。実費にてお送りします。四国会員には出来上がり次第お送りします。



▲竹炭製造プラント見学会



▲左から、フォーラム講師の松下さん、戸塚さん、コメントの澤田さん



▲交流会のメインディッシュ・大鍋の煮込みうどん

\*多忙なか師を引き受けていただいた戸塚さん、松下さん、小雨の残る屋外で休憩時間のお茶菓子になるバームクーヘンと交流会の煮込みうどんを作っていた丸亀ワークショップ研究会の方々、おかげさまで素晴らしいフォーラムになりました、どうもありがとうございました。

# やま・むら・まちをつなぐもの／それは人の和

阿波のまちなみ研究会 田村栄二

4月10日(土)は朝から雨であった。阿波のまちなみ研究会の補足調査として神山町名西酒造の酒蔵を見てから集合場所の満濃池に向かうが、神山町の雨の凄さを実感することができた。神山から山川に出て池田から最近できたトンネルを抜けるに従って雨は小降りになり、満濃池では傘をさすほどではなくなっていた。高速道路を走らなかったのが集合時間ぎりぎりになってしまったが、今回の主催者である高松のMさんやOさん、愛媛のSさん、徳島からはY先生やSiさん、Saさん、U・N夫婦らの顔が見え、楽しい会になるだろうことが予感された。

最初に竹炭製造施設を見学したが、竹の産地故に本来ならば間引かれる材料を買い上げ、地元の雇用促進につなげるアイデアに感心する。また竹炭をはじめて見るが、木の炭と比べて柔らかい表情が印象的であった。次いで、会場を仲南町ふるさと研修館に移してフォーラム。ログハウス建築で、手近にこのような研修館があるのは羨ましいかぎりである。フォーラムでの最初の活動報告は松下芳樹氏のどんぐり銀行で、以前に徳島景観研究会でお招きして講演を聞いており、2度目である。どんぐり銀行は表面にあらわれた活動がユニークであるが、松下氏も後の質疑応答でいっていたように、森林や自然の保護を第一の目的に、子供を中心とする人々の関心を森に向けさせる一手段にすぎないという。身近な環境保全のための非営利活動をしなが、人や情報のネットワークづくりが本来のねらいであるようだ。

2人目の戸塚元雄氏の報告は興味深かった。

民家型工法といい、筋交を使った今日の在来工法とは違う提案で、金物を使わない「柔構造」と木頭杉という地場でとれる材料にこだわっておられる。今日、木造といえども構造計算が云々されるように論理的・数値的に明瞭にしていこうというのが建築行政の方針であり、一方で森林を守るために木を使うということで集成材や金物を多用する新しい工法の提案が増えているなか、元塚氏の考えは新鮮に映った。「住宅は生産・地域社会システムの産物である」との氏の言葉は、常日頃まち研の活動を通して痛感していることである。永い年月をかけて地域固有の性格をあらわすに至った民家や町並みは、それを支えてきた地域社会や生産システム、生活様式が変わってしまった今日では、同じものが新たに追加されることはなく、現状維持のまま何時かは消え去るだけである。そういう意味で氏の提案と実践は心強いが、残念ながら汎用的に広がっていくシステムには今のところなっていない。地道な活動の継続と、同様な考えをもった人間のネットワークづくりが必要ということであろうか。

活動報告と意見交換のあとは、お楽しみの交流会。交流会参加費が1000円と安かったのは食べ物と飲物が持ち込みだったからだが、加えて地元ワークショップの人達が用意してくれた焼き立てのバームクーヘンと煮込みうどんが美味しかった。また翌日の朝高松のOさんが造ってくれた味噌汁と鯔のひらきが格別で、Oさんの美味しいものにこだわる一面をみせてもらった。交流会では元塚氏と話すことができたし、

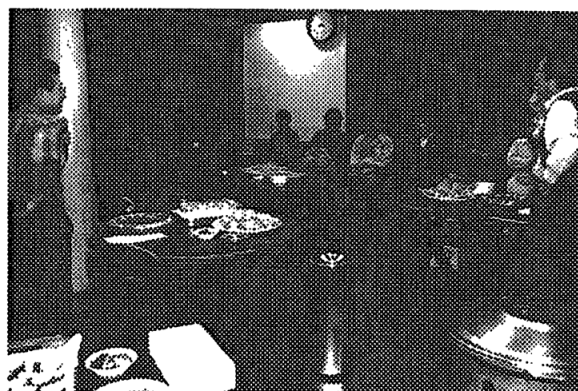


▲フォーラム



▲休憩時間のお菓子・バームクーヘンづくり

かつてMさんやOさん、私が勤めた神戸のURの出身者である丸亀のO嬢とも知り合えて、新たなネットワークづくりができた。そして最後に、行司役の徳島のHさんが来ていないこともあって愛媛のSさんと高松のOさんとの間で、相手の意見を聞いていそうで実はあまり聞いていない議論が延々と夜中まで繰り返されたことをお知らせして、今回の報告を終えたい。このような楽しい雰囲気はJUDI四国ブロックの特色で、これに触れるのがフォーラムの意義であり、ネットワークづくりなのである。



▲交流会

## JUDI四国ブロック [第9期総会] と [癒しコンセプト] を探る

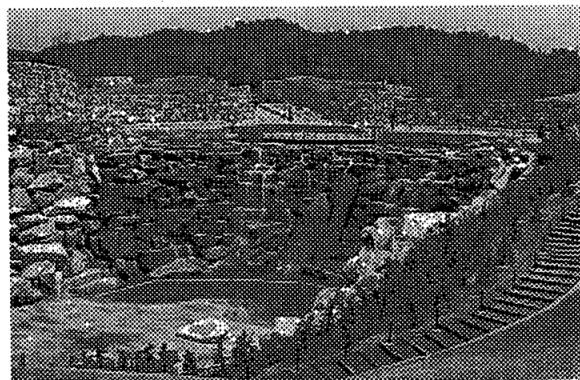
JUDI四国ブロック幹事 白石高啓

第8期の四国風土再発見・環境デザイン紀行は既に3回。桜が満開の4月10日、満濃池にも近い香川の風土を代表するような素晴らし環境の仲南町で、50名余の参加者に恵まれ、しかも丸亀市役所のワークショップ研究会員の会場協力によって、これまでと雰囲気の違った柔らかな交流会となりました。今回は総会と同日、6月5日、高知で開催が決定（詳細は同JUDInews四国参照）されましたので、是非、会員各位の積極的なご参加を!!!、魅力的なJUDIに仕付ける為にも…。尚、会員数も皆様のご協力によって現在24名となり北海道と肩を並べています。5月1日から四国もいよいよ3橋時代に突入、瀬戸内しまなみ海道周辺は賑賑しい日々の連続で、瀬戸内海風土が再び脚光を浴びていますが、果たして四国の風土は再発見出来たのでしょうか？「大変難しい質問ですね」の回答になりそうです。第9期は親睦と対話の機会を多くして「風土」の発見に時間をかけたのですが如何でしょうか。理由は「造景」2000年4月号にJUDI四国ブロック編集の四国特集（サイズA4-16ページ写真共）が掲載されることも理由の一つですが、環境デザインの源流に近づくのが二つ目です。「造景」編集の四国4県の共通テーマは「癒し」と仲南町・深夜JUDI会議で大した抵抗も無く合意され、まず一歩前進しました。

次回高知で各県、独自の企画によって叩台を提出して「癒しのコンセプト」を追求しながら、四国の環境デザインのイメージが浮かび上がってくることを願っています。欠席された会員の皆様も四国の素顔発見にお知恵を持参して下さい。

私事になりますが、四国幹事の約一年間は先輩幹事のご指導によってなんとか運営して来ましたが、不安の中にも緊張感とリアリティを感じる事がなよりの収穫でした。

仲南町の参加者からE-mailで「ワイワイ、ガヤガヤいろいろなことを、話せる場は楽しいですね」と感想を頂きました。このような雰囲気を大切にしながら、これからの一年間も御手柔らかに宜しくお願い申し上げます。らの一年間も御手柔らかに宜しくお願い申し上げます。



▲フォーラム翌日に見学した国営讃岐まんのう公園